

平成30年9月市議会定例会より

〜工藤市長の一般行政報告〜

9月10日から19日間の会期で開催された市議会定例会では、初日の一般行政報告をはじめ、9月補正予算の審議などが行われました。
※市ホームページにも掲載しています。



市制施行70年・開港70年記念事業の開催について

市制施行70年・開港70年を迎えた本市ですが、6月定例会以降の記念事業等について、その概要を説明します。

はじめに、7月14日、市内総合文化センターにおいて記念式典を執り行い、友好都市である石垣市や枕崎市、ネベリスク市をはじめ、本市と関わりのある自治体の代表の皆様にご出席いただき、多くの市民の皆様と共に70年の節目の年を盛大に祝うことができました。



次代を担う子どもたちから本市の未来を願う力強い想いを感じることができました。

の寄港の際には、稚内開発建設部と共催で「稚内港末広地区クルーズ船等対応施設供用式典」を執り行ったところ。

クルーズ船の寄港は、観光振興やみなどの賑わい創出など、地域の活性化へ大きく寄与することから、今後も関係者と連携しながらポートセールスの強化を図り、国内外からのクルーズ船の寄港実現に向けた取組を進めていきます。

次に、9月2日に「日本最北端わっかない平和マラソン」を開催しました。

このマラソンは、昭和60年から開催してきた「平和マラソン大会」を、市制施行70年の節目を機にフルマラソンの部を追加し、国内外の多くのランナーに参加していただき、本市の魅力をマラソンを通じて感じていただくこと、大会名も「日本最北端わっかない平和マラソン」と改め、開催しました。



874人のランナーにご参加いただきました。当日は、本市特有の強い風が多くのランナーを悩ませ、厳しいレースとなりましたが、スタート地点をはじめ、沿道やゴール地点へ駆けつけた、多くの市民による応援がランナーたちの力になったことと思います。

また、サハリンの島影が望める宗谷岬をスタートし、海岸線から牧草ロールの並ぶのどかな酪農地帯を折り返し、ゴールの北防波堤ドームを目指したコースは、参加した多くのランナーから、雄大な景色を十分に堪能できる素晴らしいコースだったとお聞きしています。

フルマラソンを通じて、国内外の多くの人に本市の特徴を知ってもらうことが

でき、新たな観光資源としての可能性を見出させたことは、大変意義のある大会であったと思っています。

また、シヨートの部には、市内の小中学生を中心に1,437人が参加し、ゲストランナーの「赤羽有紀子さん」には、前日のマラソン講習会の開催や2kmコースを走っていただき、完走後もランナー達に声を掛け応援いただくなど、大会を盛り上げていただきました。

参加者の事故なども無く、無事に大会を終えられたことは、ひとえに、交通規制に對しご理解をいただいた市民の皆様や関係機関、各事業者の方々のご協力によるものから感謝をいただいております。

今大会の開催にあたり、ご尽力いただいた関係者の皆様、大会運営をサポートしていただいた多くのボランティアの皆さんや関係機関、各団体、そして大会を盛り上げていただいた市民の皆さんに、改めて深く感謝を申し上げます。

ノシャップ寒流水族館開館50周年について

昭和43年7月に、日本で100番目の水族館として

9月6日に発生しました「平成30年北海道胆振東部地震」により、お亡くなりになられた方々にお悔やみ申し上げますとともに、被災された全ての皆様に、この場をお借りして心からお見舞い申し上げます。

生活に大変な影響を受けました。市としては、基幹産業における生産活動をはじめ、観光で本市においていたいた方、さらには、交通網の寸断により戻ることの出来ない方への対応など、あらゆる想定をしながら、災害対策本部を中心に対応に万全を期してきただころです。

市民の皆さんが1日でも早く普段の生活に戻れるよう、国や北海道、関係機関や各団体などと連携を図り、早期の完全な復旧に向けて全力で取り組んでいきます。

市民の皆さんが1日でも早く普段の生活に戻れるよう、国や北海道、関係機関や各団体などと連携を図り、早期の完全な復旧に向けて全力で取り組んでいきます。

次に、開港70年を迎えた稚内港は、これまで岸壁の延長不足などにより大型クルーズ船の係留に対応できずにいましたが、一昨年、11万トンクラスの船が受け入れ可能となる「クルーズ船受入環境改善事業」が採択され、昨年度から末広埠頭東岸壁の整備が進められていました。

本年、整備が完了したことから、記念事業の一として7月10日に「ぱしふいっくびいなす」、7月27日には「飛鳥II」に寄港していただき、また、「飛鳥II」